

Ecola

イ・コ・ラ

No.17

発行 2012年11月17日

みなさん、こんにちは！

暑い夏が突然終わったかと思うと、大雨が降ったり、雷が鳴ったりしながら、ここのところ急激に紅葉が進んできましたね。今年の天気はかなり不安定で、突然の大雨で学校が休校になったり、そうそう、夏前には紀北支援学校周辺が冠水したこともありましたね。みなさん、大丈夫でしたか？

イコラの編集会議では、すでに薄れた記憶を手繰り寄せつつ半年を振り返るのですが・・・ロンドンオリンピックが開催され、和歌山出身の選手も多く活躍されたことや、パラリンピックで重度自閉症の水泳選手が金メダルを獲得されたことなど、「熱い夏」の話題で盛り上がりました。

では、みなさんもゆっくり振り返ってください。今号は、ワイルドにいこらだぜえ～！！

お疲れさまでした



退任の挨拶をする石橋さんと
伊勢家さん



長い間、和歌山県自閉症協会の事務局長を務めてくださった石橋智恵子さんが、4月7日に開かれた24年度県総会をもって退任されました。「石橋さんが退任??」 衝撃をもって受け止めた方は多かったらと思います。それほど石橋さんは、我が会にとっては「お母さん(?)」のような、「そこにいるのが当たり前」のリーダーでした。多くの難題を乗り越え、会の運営に尽力されました。大久保会長との絶妙な掛け合い(けんか?)も楽しかったです。本当に長い間、ご苦労さまでした。

また、和歌山市分会の事務局長を4年間務めてくださった伊勢家富士雄さんも退任されました。次々と新しいことに挑戦し、会の活動を広げてくださいました。特に、「おやじの会」を立ち上げ、お父さんたちの勉強会を企画したり、親睦会(飲み会)を開いたりなど、お父さんたちの交流を深める努力をされたことを思い出します。本当にお疲れさまでした。

講演会

2012世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間講演会
主催 和歌山県・和歌山県教育委員会
NPO法人和歌山県自閉症協会

記念講演「自閉症の人を理解し支援する」

佐々木正美先生

～ 自閉症のまま健康に幸福に～



佐々木先生は終始温厚な笑顔で「無理解で熱心な人」が本人たちにとって一番迷惑な存在、と会場を沸かせながら、正直で・嘘をつかず・裏表のない自閉症の人たちの「得意な事」また「苦手な事」を事例を交えてわかりやすく解説し、理解を求められました。そして、弱点を強く修正するより、長所を伸ばすよう務め、それぞれの適応しやすい環境を整え、その特性のままで能力を発揮できるよう支援を続けることが「自閉症のまま、健康で、幸福な人生」につながることを学ばせて頂きました。

(和歌山県自閉症協会 HP より)

平成24年4月7日
和歌山市中央コミュニティセンター
3階多目的ホールにて
児童精神科医・川崎医療福祉大学特任教授
佐々木正美先生の講演会を開催しました。



お母さんランチ会



5月24日(木)

参加者 12名

ダイワロイネットホテル和歌山「サンクシェール」にて

3年ぶりにお母さん親睦ランチ会を開催しました。
個室で、ゆっくり美味しいフレンチをいただきながら、近況報告や、内緒話など(笑)、色々おしゃべりして、楽しいひとときを過ごしました。優雅にワインもいただいている方もいらっしゃいましたよ(^^)

母親クッキングやお母さん交流会は、同世代のお母さん同士の集まりなので、お母さんランチ会が世代の離れたお母さんと会える貴重な機会になっていることに改めて気づきました。



今度こそ定期的にやっていきたいと思っていますので、皆さんまたぜひご参加くださいね！

次は和食がいいかしら・・・？



お母さんの交流会

中央コミュニティセンターにて	
4月17日(火)	18名(一般9名)
6月19日(火)	8名(会員限定)
7月3日(火)	19名(一般9名)
9月11日(火)	9名(会員限定)
10月18日(木)	21名(一般14名)



今年度から、会員限定の交流会も定期的で開催しています。会員だけで少人数でゆっくり話せる場になっていますので、気軽に参加してくださいね。

また、一般参加の方も増えてきています。特に幼児期のお子さんのお母さんが多いです。「お母さん&おばあちゃん」での参加も何組もありました。先輩として相談にのる側になることが多いとは思いますが、ぜひ参加して、ご自分の経験など話してもらえたらうれしいです。

一般参加の方がアンケートに書いてくださった感想を紹介します。

- ✚ 初めて参加させていただきましたが、とても楽しくお話しさせていただいて嬉しかったです。ありがとうございました。
- ✚ 初めてで緊張しましたが、いろいろお話聞けて良かったです。
- ✚ 手帳の話や、進学の話聞いて良かったです。
- ✚ 悩みを聞いてもらってすっとしました！
- ✚ 初めて参加させていただきましたが、緊張しました。各人それぞれ分かれてのお話し会のようなだったので、ちょっと残念でした。
- ✚ 学校の情報や、支援学校へ通わせているお母さんの話など聞くことができ良かったです。
- ✚ 愛徳の先生の話、療育またはリハビリを兼ねてやっている事など、情報が交換できて良かったです。
- ✚ 療育手帳の件や就学について色々相談できて良かったです。



夏休み親子クッキング

第1回 8月7日(火) 10:00~14:00 ごろ 中央コミュニティセンター 調理室

参加 13名 餃子(5種)・おにぎり・プリンパフェ



いろいろな
変わり餃子、
みんなも作って
みませんか?
は特におすす
めだそうです。

餃子レシピ

定番の餃子

合い挽きミンチ、キャベツ、玉ねぎ、にら、卵、
パン粉（お好みで+にんにく、生姜）

ポテト・カレー餃子

に、茹でて潰したじゃがいもと、カレーパウ
ダーを加える。（お好みで+とろけるチーズ）

お餅・チーズ餃子

スライス餅+とろけるチーズ+ベーコンまたは

ハム

大葉・チーズ餃子

大葉+とろけるチーズ

バナナチョコ餃子

スライスバナナ+板チョコ

特製タレ・・・ゆず胡椒+醤油(+酢)
酢+胡椒

中村倅都くんが感想を書いてくれました。

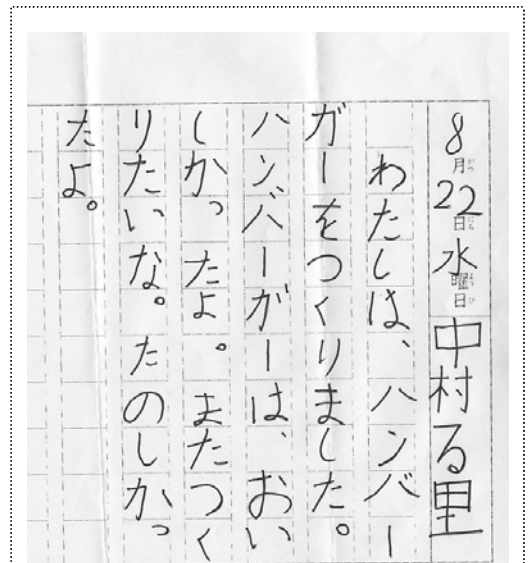
た。	は、	い	や	フ	フ	8
た。	お	し	い	フ	ク	月
た。	い	し	い	フ	リ	7
た。	し	か	て	ん	ま	日
た。	か	っ	た	で	し	曜
た。	く	た。	べ	ま	た。	日
た。	す	。	ま	し	。	
た。	た	。	し	。	。	中村
た。	べ	。	。	。	。	ゆき
た。	ま	。	。	。	。	と
た。	し	。	。	。	。	



第2回 8月22日(水) 10:00~14:00 ごろ 中央コミュニティセンター調理室
 参加 15名 　　てりやきバーガー・フライドポテト・白玉&チョコレート白玉



中村瑠里ちゃんが感想を書いてくれました



中村さん(母)の感想です

親子クッキングに参加させていただくのは、今年で6年目になります。この行事を子どもはとても楽しみにしています。

家ではつい、「火の近くは危ないのでダメ」「包丁は危ないのでダメ」など言ってしまいます。こんな感じなので、一緒に料理を作ったり、お手伝いをしてもらう事などはほとんどありません。クッキングでは、いい機会なので、子どもと一緒に野菜を切ったり、フライパンを使って焼き物をしたりなど、色々と体験させてもらっています。

親子クッキングは、お母さん達、子ども達の交流の場にもなっています。子ども達は、兄弟姉妹も一緒に参加し、子ども同士仲よく調理したり、食べたり、遊んだり(ゲーム)して楽しんでいます。

お母さん達は、調理しながら、普段困っている事、悩みを聞いてもらったり、情報交換などを行っています。まだ、参加されていない方は、来年は是非参加してみたいはかがでしょうか？

サマーキャンプ

8月4日(土)～5日(日)

アイリスパークオートキャンプ場

田辺市中辺路町



参加された M 母さんの感想です。

【バーベキュー】

参加者が少なくて、ちょっと賑やかさに欠ける感じでしたが、初対面の方とも話げできて楽しかったです。焼肉やウインナーと息子の好物ばかりで、会長さん特製「ポークビーンズ」も美味しくて、おかわりしていました(*^_^*)

【熊野古道ウォーキング】

2日目は朝からあいにくの雨で、ウォーキングは出来ないかも！？と諦めていたのですが、ちょうど雨の止み間が…。距離を短くして「牛馬童子」まで歩くことに。

思ったより険しい山道もあり、親は体力の衰え、息子の体力の増加を改めて感じたウォーキングでした。自分達で来たなら、多分見過ごして立ち寄らないだろう史跡、ちょっと、しんどかったですが、お参りできて良かったです。

山を降りて解散した途端、土砂降りに…日頃の行いの良さでしょうか(^_^)

2日間ありがとうございました m(_)_m



岡先生、辻先生による個別相談会

この後は、そのままみんなで懇親会に(*^_^*)



熊野古道ウォーキングに出発！



～牛馬童子にて～

何をお祈りしているのかな？

岡先生のワンポイントアドバイス⑩

附属特別支援学校 岡 潔

～トラウマの正体はいかに～

私の最近の研究テーマは、「自己理解」です。自己理解といっても幅が広く、重度の方なら、鏡に映った自分の姿を見て顔についた異物を取れるかというのも視覚的な自己理解の一つです。また、学校の授業の中でよく展開されている例は、自分の得意なことと不得意なことを知るといった取り組みも自己理解の内容です。自尊心が高いことはよいことなのですが、中には自分の理想と現実の能力とのずれが大きすぎて悩む方もおられます。

悩みと言えば、自閉症は忘れられない障がいとも言われたりします。嫌な体験の記憶は、普通は時間とともに薄れていきますが、時間が過ぎても自動的に記憶が想起され、日常生活にマイナスの影響が出てきます。これをフラッシュバックとも言いますよね。トラウマという見方もできるでしょう。自閉症の人が、怒鳴り声を聞いたり、大きな音を聞いただけで身体が痙攣したようにビクビクしてしまったり、その場で飛び跳ねてしまったり、自分の頭を拳で思いっきりガンガンと殴ったりしてしまうという反応もその一例です。

テンプル・グランディン氏は、自閉症者の感情の中心は、「恐怖」である、と言っています。また、ドナ・ウィリアムズ氏は、「トイレにおもちゃを落としてしまい、自分も一緒に流されるのではないかとおびえる子どももいる。散らかした、うるさい、汚いモノを触ったなど、自分の行動に対する周囲の過剰な反応に傷つく場合もあれば、単に突然笑われたり、背の高い大人に囲まれ（愛情ゆえに）あれこれ世話を焼かれるのが息苦しくて、苦痛に感じる場合もある。」（『自閉症の豊かな世界』より）と述べています。つまり、自閉症の知覚過敏性から、周りの世界はとても怖い世界で、不意打ちや秩序の混乱が頻繁に起こってびくびくしている状態かもしれませんね。このように、不適応を起こしてしまう原因、悪玉がトラウマと考えてみてください。

でもこのトラウマが、いつどこで生じるのか、なかなか防ぎにくいものでもあります。震災後、ちょっとした地震でも大騒ぎをするようになったり、地震でなく風の音や家の前を通る車の音にも反応したりすることがあると自閉症の息子のトラウマに悩む親御さんの手記を拝見したことがあります。

自閉症という障がい自体は必ずしも不適応を起こすとは限りません。よくマスコミが、自閉症児はパニックを起こすというイメージで報道していることがあります。これはある意味偏見だと思います。生育の中で受けた心の傷が不適応を起こしていると理解してほしいものです。

私の研究では、公立の中学校から特別支援学校高等部に入ってきた生徒のほとんど全員が、何らかのトラウマをもっているということが心理検査で明らかになっています。この理由をひも解いてみますと、必ず「いじめ」体験が見え隠れしています。最近のいじめの様子は、冷やかしかからかい、悪口や脅しなど嫌なことを言われるという内容が7割くらいを占めます。その他にも、仲間外れや集団による無視など心理的な攻撃が多くなっていて、陰湿かつ継続反復的であるという深刻さをもっています。ゆえに、精神的な苦痛を感じトラウマとして抱えている子が多いのです。いじめは、深い傷跡を後の人生までも残すこととなりますので、早期に介入して配慮していく必要がありますね。

昨年の大津の事件以来、いじめは大きな社会問題となり、学校においても見過ごさないようにと指導が入っていますが、先にも述べましたが、いじめは見えにくくなっているのも事実です。一人一人を大切に人権教育の見直しと人権感覚を大人も子どもも磨いていく必要があります。「インクルーシブ教育」や「共生社会」という言葉をよく耳にするようになりましたが、まだ依然として他の人と違うことを排除するような生活環境があったり、できたら障がい者と関わりた

くないといった価値観をもった人たちもいたりする現実もあります。自閉症者を含め、障がい者は特別な人ではないことを多くの子ども及びその保護者に理解してもらうことが大切です。そのためには、教育、医療、

保健、福祉、労働等、障がい児者に関わる全ての機関が、常日頃から強く障がい児・者の人権を守る姿勢を示していかなければならないのだと思います。

班長会

9月20日(木)中央コミュニティセンターにて

(参加者12名)



役員会が夜に開催されるため、出席が難しい班長さんが多いこともあり、年2回ほど平日の昼間に班長会を開催しています。

今回は、新役員、新班長の紹介、24年度上半期の活動報告の後、人権フェスタのブース当番や対話集会での要望について話し合いました。

事務局メンバーがかわりました!!

新事務局長ご紹介!



日浦さん

江川さん

西浦さん

こんにちは。伊勢家さんの後任で、4月から事務局長をさせていただくことになりました江川です。植野さん、尾崎さんに加え、日浦さん、西浦さんの若いお二人の力をお借りして、会員みなさんに愛される事務局を目指していきたくと思っています。至らない点もまだまだありますが、ご協力よろしくお祈いします。

新事務局長 江川かがり

事務局から

毎年4月の年会費の引き落としができない方が多く、県の会計担当者が困っています。ゆうちょ銀行での引き落としの手続きができていない方は、早急に手続きを行ってください。4月15日の前日までに、引落とし口座に年会費7,000円を入れておいてください。みなさんのご協力よろしくお祈いします。

(事務局) 江川かがり

編集スタッフ： 尾崎富久子・江川かがり・藤原昌子・植野比呂美

《発行》イコラ編集局(連絡先)植野比呂美

e-mail:h.ueno@pool.e.ac.jp